

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201608		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	もえれのお家篠路 郷		
所在地	札幌市北区篠路1条2丁目1-7		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和2年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0190201608-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は創成川沿いのポプラ並木を窓から臨む場所にあり、商業施設、小学校、公園、地区センター、保育園などが近隣にある。本来、地域との密接な関係を構築しつつあるところで、昨年度より活動してきた、地域に向向いの認知症に関する講座の開催などを積極的に行なってゆく計画であったが、新型コロナウイルスの蔓延により、地域活動、ボランティアの受け入れ、外出などを自粛せざるをえない状況となっている。様々な地域での行事が三密を避けるため、中止となっており、事業所内で出来る活動に力を入れ、外部者と接触しない形でのドライブ、散歩、事業所内レクリエーションを継続して行う事により、楽しみの持てる生活の提供とフレイル予防に力を入れている。また、市内感染が広がりを見せたことをきっかけにLINEでの面会など家族が安心できる組みも行ってきている。感染症対策に努め、食毒液の設置、体温測定の慣行、事業所内の消毒と入居者の健康管理にも余念なく取り組んでいる。また、入居者の体調に合わせ、必要な医療的支援を提供できるよう訪問看護ステーションとも密に連携しご本人、家族の意向に沿った安心できる場所での生活の継続を重視した支援を行っている。ICTを導入しており、写真や動画などを記録として残している為、入居者の普段の様子、体調の変化などを詳細に職員間で共有できているほか、家族の来訪時にも行事を楽しむ様子、ふだんの表情を見ていただくことにより、より信頼や、安心につなげることが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「もえれのお家 篠路」はバス停から近く、周辺に商業施設や公園などがあり、暮らしの利便性が高い環境に建っている2ユニットの事業所である。建物2階が住みで、1階は法人の在宅支援事業部を併設する総合福祉拠点となっている。事務所を中心にユニット間で行き来でき、利用者の交流もある。共用空間は清潔で中庭に面した窓から日差しが入り、明るく開放的で居心地のよい空間になっている。開設2年目となり管理者と職員は利用者に向き合い、理念に沿って一人ひとりの暮らしを家族と共に支えることを常に意識して上質なサービスを提供している。年間を通して介護計画、研修、災害対策を計画的に行い、安心できる環境を整えている。1階にある訪問看護ステーションとは相談できる環境で看取りも行い、また法人の理学療法士が週1回訪問し身体状況に合わせたケアの指導があるなど法人の協力体制も得られている。現場の視点を活かしたパソコン上のサービス管理は、利用者に向き合う時間が確保され、個別の思いに沿った対応につながり、ケアマネジメントの質的向上となっている。感染症防止で外出や住民との関わりが難しい中で、屋内で楽しめるように利用者と一緒に食事やおやつを作ったり、趣味を披露できる場面づくりなどを積極的に企画している。職員は親身になって利用者の思いに寄り添って安心できるように丁寧なケアを行い、職員の明るい対応は安心感を与えて家族にも喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が見える場所に掲示し、いつでも目にし共有することが出来る。一人一人その人らしい生活を送れるよう実践している。	地域での暮らしを支える文言を理念に盛り込み、カンファレンスや申し送りなどで日々のケアを振り返ることもある。介護計画を見直す際にも理念に触れ、その人らしい暮らしの意向を聴き取り、個別の計画に沿って対応している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのイベントへの参加、ボランティア訪問などの交流を計画していたが、新型コロナウイルスの影響で制限されている。地域の情報収集を行いながら可能な範囲で交流している。	コロナウイルス感染防止から町内会祭りの中止など、住民や子供との交流機会が難しい状況にある。周囲を散歩したり、敷地内にある法人運営の就労継続支援事業のパン工房でランチを楽しんだりして可能な限り、地域住民として過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症介護指導者の資格を有しており、認知症を抱える家族との交流の場を事業所内で開催するなどしている。(今年度は開催できていない)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は感染症拡大防止の為、2か月毎に書面開催となっている。参加者から頂いた意見は充実したサービスとなるよう活かしている。開催方法が変わった事で意見が多く出されている面もある。	運営推進会議は書面で開催し、町内会長、地域包括支援センター職員、多くの家族からも意見が寄せられている。感染症の対応や災害時の確認方法などの意見を得て分かりやすく改善しており、会議案内と議事録は全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が中心となり行っている。日ごろから情報共有やコロナウイルス関連の連絡等密に連携が取れる体制を取っている。	市からは感染症対応の通知が多くあり、情報を把握しながら現場に反映している。またマスク、消毒液などのアンケートにも協力している。生活保護担当者には個別の状況に応じて相談や確認をし、利用者のニーズに沿って連携をとっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束廃止適正化検討委員会を立ち上げており、各ユニットから2名ずつ委員となり内容は他職員に伝達している。また法人内、事業所内での勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の身体拘束廃止適正化検討委員会に事業所から委員が参加し、報告で全員が内容を把握している。職員は適正化方針に沿った法人研修や事業所の勉強会を含み年4回と学ぶ機会が多い。会議でも事例を取り上げて対応を話し合い、利用者の思いに沿ったケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時や勉強会で全職員が学ぶ機会を持ち、日々の業務の中で常に職員はお互いに意識しながら防止に努めている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内や外部での研修で学ぶ機会があった。該当する入居者が制度を活用できるよう、今後職員間でも情報共有や学ぶ機会を持ち更に理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項については管理者が行い、疑問点などがないか確認している。家族から職員に質問があった際には管理者に報告し都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、常に家族は施設側に伝達できる機会を作っている。口頭で要望があった際には管理者に随時報告し対応している。また、外部へも意見を述べる事が出来る事を契約時に伝え玄関にも掲示している。	コロナ感染拡大防止の制限が緩和されてからは、家族の来訪が頻繁にある。面会の制限時には、ラインを活用したり、月に1回個別にお便りを作成して家族に送り、本人の写真を載せて普段の暮らしを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に話し合いの場を設け、提案や意見が反映されている。それ以外にも常時要望を聞き入れ、働きやすい環境づくりを行っている。	ユニット会議で業務の見直しや計画の評価を話し合い、提案などを検討している。業務の中で随時意見を聞き、役職員会議で反映できるようにも工夫している。職員の個別の事情に沿って、コロナ影響への不安を受け止めながら対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員と面談する機会があり、意見や提案を伝えることが出来る。それ以外にも常時要望を聞き入れ、働きやすい職場環境づくりができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務を行う中で、ケアの方法などを実践しながら学ぶことが出来る。また、法人内外の研修案内が掲示されており、職員それぞれのスキルに合わせながら向上できるようすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で同業者との交流する機会を設けることは難しいが、積極的に外部研修等で交流することが出来る環境である。現在は、できる範囲内で行っている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていることや不安なことがないか、親身になって伺い安心して施設での生活を送ることが出来るよう努めている。また、入居前には全職員で周知し、統一した支援を行い関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの不安や要望一つ一つに耳を傾け、解決できるよう関係性を構築している。来訪時には積極的に声をかけを行い、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に困っていることやどのような生活を送りたいか伺い、適切な介護サービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をさせていただくという姿勢を大切にし、利用者ができる家事作業等の声掛けをし一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にして、来訪された際には日頃の様子等を伝えている。面会制限期間中には様子を撮影したものを郵送したり電話で近況を伝えるなどした。また、ご家族の意向を伺いながら、本人がその人らしい生活を送れるよう寄り添っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や宗教関係者の来訪、電話や葉書を通じての交流を支援したり、なじみの人や場所を会話の中で話題にするなどしている。	コロナ感染防止で来訪者を制限する状況にあるが、友人や知人には電話や手紙で交流が出来るように支援している。家族と外出したり、職員同行でドライブをして車窓見学を楽しむ方もいる。場面づくりで趣味が楽しめるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握しながら、仲の良い利用者同士が自然に関わりあえるように席順等を配慮したり、個々の生活リズムに合わせて対応している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族から手紙を頂くこともあった。状況に応じてご家族と連絡を取りフォローしている。また、困ったことや相談には随時伺い支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思いを確認し、可能な限り実現に向けて支援している。困難な場合には本人の様子や家族に伺うことで確認している。	可能な限り本人の意向を確認し、計画書の2表に本人の言葉などを記入して日々のケアにつなげている。課題分析表に本人の暮らし、趣味、嗜好の欄を作成し変化なども追記して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人やご家族から伺っているが、入居後も会話などからその把握に努めている。可能な範囲で継続してできるよう対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのペースに合わせながらその人らしい生活を送れるよう、日々の様子を写真等を交えながら記録し職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの期間ごとまたは必要に応じてカンファレンスで検討している。ご本人は勿論、ご家族や関係先とも随時連携を図り、現状にあった介護計画を立て支援している。	計画の見直し時には職員間で意見交換を行い、また家族も来訪し意向や提案を受けて3か月ごとに更新計画を作成している。分かる利用者には内容を説明している。日々の記録はパソコン上でを行い、変化は色で識別できるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録に変化や気づき等を記録し、職員間で共有し評価時に役立てている。また、気づいた内容を職員が目にする事が出来る場所に掲示することで速やかに情報伝達、共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対してインフォーマルなサービスを活用したり、管理者に相談するなどして実現に向けて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーやおむつサービス、ボランティア訪問等、現在の生活がより充実したものとなるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診または専門病院の受診などご本人やご家族の意向を伺いながら支援している。	医療機関4か所の訪問診療を個別に受けており、内科以外の専門的な他科受診は家族や職員の同行で通院を継続している。個別の詳細な記録類は画像にしてパソコン上で共有が可能になっている。	

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護が入り、日々の様子や変化を報告している。気になることは適宜相談し助言を受け連携が図られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院との情報共有をしながら連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とは状況に応じながら重度化または終末期にはどのような意向であるか伺い話し合っている。その内容は適宜職員や関係者と情報共有している。	重度化対応指針は文書で説明し同意を得ている。状態の変化に応じて主治医の説明から看取りを希望する場合は「看取りケアについての同意書」を交わし、現在看取りの方もいる。看取り研修を行い、職員は日々学びながらケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、医療機関やご家族への連絡が速やかにとることが出来る。予測される利用者においては対応の手順を掲示している。応急手当や初期対応の研修は研修で行っており、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を掲示し、災害時の訓練を定期的に行っている。勉強会でも学びながら緊急時には実践できるよう体制を整えている。	今年度は昼夜想定した火災、水害を想定した避難、誘導などの訓練を実施し、感染症防止から町内会や関係者には文書で報告している。地震についてはケア場面の対応を確認しているが、今後も想定できる内容を検討したいと考えている。	冬期も含め災害備蓄品類の整備や、各災害時の訓練を行っており、地震時の対応を更に検討を重ねているので、その意向に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人一人一人の人格を尊重し、人生の年配者として丁寧な言葉遣いや接し方を心がけている。プライバシーを損ねるような対応は行わないよう常に念頭におき対応している。	気になる言葉がけなどがあった場合は、その都度改善できるように対応している。利用者の個人的な話をする際は、できるだけ居室でするようにし、周りにおきえないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望は常に伺い、可能な範囲で対応している。日常生活の中で常に選択肢があり決定できる環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が生活の主体であることは理解でき実践しているが、職員の都合を優先している場面を目にすることが時にある。職員間でその人らしい生活とは何かを話し合い、改善していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用している。化粧などお洒落を楽しんでいる。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際には出前をとったり、リクエストを伺って皆で調理するなどそれぞれの家事得意分野を活かしながら行っている。その際には一緒に食事をとり、楽しい時間を共有している。	外部委託をしているが、季節のものや利用者の好きなメニューも取り入れて提供している。行事などでは出前を頼んだり、職員と利用者が一緒に「ぜんざい」や「おはぎ」作って楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はタブレット端末を活用し把握しながら対応できている。嚥下機能や好みを把握しながら個々に対応できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、必要に応じて介助している。毎週歯科衛生士による口腔ケアを受け、医師からも職員のスキルアップのための必要な助言を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンの把握に努め、適宜評価、検討を行っている。決まった時間に排便するリズムを整える、日中は布パンツを使用するなど工夫しながら対応している。	タブレット端末で排泄状態を管理、把握することで、利用者の情報を効率的に活用し支援している。利用者と相談のうえ、できるだけトイレ誘導をして自立の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の食品を積極的に摂り、スムーズな排泄をすることで体調良く過ごせるよう取り組んでいる。時にはマッサージや運動も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれのニーズに沿いながら入浴できるよう支援しているが、職員の人員が足りず入浴できないこともある。	いつでも入浴できるが、利用者の体調の関係で午前中に入浴することが多い。利用者の希望によっては、入浴の日時を指定することもできる。また、職員が理学療法士から助言を受けることで、利用者が安心して入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活ペースに合わせ、落ち着いた環境で過ごせるよう支援している。また、職員は生活ペースを把握し、入床の声掛けや誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については的確に行えている。服用している薬の内容や情報への理解を深めているが、全職員が認識しているとは言えない状況であり、今後の課題である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好む活動や張り合いに感じていることを職員は把握し、日々の生活の中で支援している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には周辺の散歩やドライブに出かけることもあるが、新型コロナウイルスの影響で回数は減っている。ご家族の協力を得ながら外出を計画し実行できている。	可能な限り利用者が参加するドライブを実施している。身近なところでは、近所の公園などへ散歩をし、花や畑などを見て楽しんでいる。外出が難しい時期は敷地内にあるパン屋の軒先でソフトクリームを食べることもあり、外での空気を感じられるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いは施設で管理しているが、ご本人やご家族の意向で所持し使用できている方もいる。他の利用者に関しても、買い物の際には可能な場合使えるよう支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りは、状況に応じて支援している。面会制限中にはご家族との面会が思うようにできず、希望によりテレビ通話を行ったりもしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度を常に確認することが出来、利用者が快適に過ごすことが出来るよう努めている。排泄物は臭いが漏れないよう対策出来ている。	窓が多く居間などは明るい造りになっている。室内の温度調節ができるように空調設備が整備されている。加湿器を各所に配置して湿度を保ち健康管理に配慮している。壁には職員と利用者で作成したその季節の作品が飾られており、季節を感じる事ができる。対面キッチンであるため、食事の準備をしながらでも利用者を見守ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の場面に合わせながら支援している。小さなリビングスペースがあり、一人でもゆったりと寛ぐことが出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具や好みのものを用意していただけるよう、ご家族に要望している。居室内にテレビや家族の写真等を用意し工夫している。	備え付けの介護用ベッドで負担なく起き上がることができる。居室にはCDや本、雑誌などが持ち込まれており、壁には家族の写真や昔の写真などが貼られていて、これまでの暮らしのように過ごすことができるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の表示や、居室に表札を掲げるなどわかりやすくしている。居室内では安全に過ごせるよう、個々の状況に応じて環境整備を行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201608		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	もえれのお家篠路 畔		
所在地	札幌市北区篠路1条2丁目1-7		
自己評価作成日	令和2年9月7日	評価結果市町村受理日	令和2年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0190201608-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は創成川沿いのポプラ並木を窓から臨む場所にあり、商業施設、小学校、公園、地区センター、保育園などが近隣にある。本来、地域との密接な関係を構築しつつあるところで、昨年度より活動してきた、地域に向向いの認知症に関する講座の開催などを積極的にこなしてゆき計画であったが、新型コロナウイルスの蔓延により、地域活動、ボランティアの受け入れ、外出などを自粛せざるをえない状況となっている。様々な地域での行事が三密を避けるため、中止となっており、事業所内で出来る活動に力を入れ、外部者と接触しない形でのドライブ、散歩、事業所内レクリエーションを継続して行う事により、楽しみの持てる生活の提供とフレイル予防に力を入れている。また、市内感染が広がりを見せたことをきっかけにLINEでの面会など家族が安心できる組みもを行っている。感染症対策に努め、食毒液の設置、体温測定の慣行、事業所内の消毒と入居者の健康管理にも余念なく取り組んでいる。また、入居者の体調に合わせ、必要な医療的支援を提供できるよう訪問看護ステーションとも密に連携しご本人、家族の意向に沿った安心できる場所での生活の継続を重視した支援を行っている。ICTを導入しており、写真や動画などを記録として残している為、入居者の普段の様子、体調の変化などを詳細に職員間で共有できているほか、家族の来訪時にも行事を楽しむ様子、ふだんの表情を見ていただくことにより、より信頼や、安心につなげることが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が見える場所に掲示し、いつでも目にし共有することが出来る。一人一人その人らしい生活を送れるよう実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区センターや保育園・ミニ児童クラブとの行事、町内会の夏祭りなど交流を予定していたが、コロナウイルスの影響で中止。交流を図る事が難しい		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症介護指導者の資格を有しており、認知症を抱える家族との交流の場を事業所内で開催するなどしている。(今年度は開催できていない)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は感染症拡大防止の為、2か月毎に書面開催となっている。参加者から頂いた意見は充実したサービスとなるよう活かしている。開催方法が変わった事で意見が多く出されている面もある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が中心となり行っている。日ごろから情報共有やコロナウイルス関連の連絡等密に連携が取れる体制を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束適正化検討委員会を設置し定期的に会議を開催し事例を元に検討している。また、ユニット会議等で身体拘束に関する研修を予定している。ユニット会議では不身体拘束に繋がるケアをしてないかなど振り返ってもらい身体拘束をしないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を予定している。また、ユニット会議で不適切なケアに繋がる声掛けについて検討し振り返ってもらい不適切なケアに繋がらない様に注意を払っている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所が開設して半年程度な為、権利擁護についての研修を行っていないが今後、外部研修や内部研修を通して職員が権利擁護について理解を深め、活用できる様に務める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項については管理者が行い、疑問点などがないか確認している。家族から職員に質問があった際には管理者に報告し都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、常に家族は施設側に伝達できる機会を作っている。口頭で要望があった際には管理者に随時報告し対応している。また、外部へも意見を述べる事が出来る事を契約時に伝え玄関にも掲示している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に話し合いの場を設け、提案や意見が反映されている。それ以外にも常時要望を聞き入れ、働きやすい環境づくりを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員と面談する機会があり、意見や提案を伝えることが出来る。それ以外にも常時要望を聞き入れ、働きやすい職場環境づくりができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務を行う中で、ケアの方法などを実践しながら学ぶことが出来る。また、法人内外の研修案内が掲示されており、職員それぞれのスキルに合わせながら向上できるようすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で同業者との交流する機会を設けることは難しいが、積極的に外部研修等で交流することが出来る環境である。現在は、できる範囲内で行っている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度か面談し、心身状態の把握や不安や困りごと等をお聞きし不安を解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何度かご家族と面談し困っている事や不安に思っている事や要望等をお聞きし信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に、ご本人・ご家族からご本人の心身状態をお聞きし、その方が必要ば支援かを見極め他のサービスが必要であれば提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が一緒に茶碗洗いや洗濯たみ等をおこなっている。また、入居者様から昔の知識等を教えて頂き職員が、その知識を活かしていることもあり。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にして、来訪された際には日頃の様子等を伝えている。面会制限期間中には様子を撮影したものを郵送したり電話で近況を伝えるなどした。また、ご家族の意向を伺いながら、本人がその人らしい生活を送れるよう寄り添っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪して頂き楽しい時間を過ごしたり毎週、馴染みの美容室に行きシャンプーに通ったりして馴染みの関係性が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握しながら、仲の良い利用者同士が自然に関わりあえるように席順等を配慮したり、個々の生活リズムに合わせて対応している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設間もない為、サービスを終了した方はいないが必要に応じて、ご本人様・ご家族様が相談できるよう近況をお聞きしたり、他事業所との連携が必要だと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の会話の中で希望や意向をくみ取り職員間で情報共有を行い、希望や意向に沿って支援が出来るよう努めている。また、ユニット会議で話し合いを行い支援に繋げている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後に、ご本人やご家族から生活歴・馴染みの人・場所・物等をお聞きしている。また、認知症を発症してからの生活や利用していたサービス等もお聞きし職員で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態やご本人らしい過ごし方について日々記録に残しモニタリングやアセスメントを行いご本人の出来る能力を検討しその能力を発揮できるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で、支援に対する見直しや支援方法の変更などを話し合い、ご本人・ご家族・医療機関・専門職に意見を求め全ての意見を反映し同意して頂き介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間心身状態や活動内容・受診内容などの個別の記録を入力し職員が情報共有し、支援の統一化やモニタリング・アセスメントに活用し介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者・ご家族様のニーズや要望に対応できるようにフォーマル・インフォーマルなサービスが活用できる様に提案させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センターや保育園との行事に参加させて頂いたり、町内の夏祭りにご家族・職員で参加し地域の一人として交流を図っている。また、一人一人どのような社会資源を活用できるかを検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名全員が訪問診療を受け心身状態の変化等を報告し必要に応じて専門医に診てもらえる様に助言を受けている。ご家族の希望で訪問診療以外で定期的に受診されている方もおり、ご本人やご家族の希望に沿った対応をしている。訪問看護ステーションを介して連携する場面も多い。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護師が来られ、心身状態の報告をし、必要に応じて処置を依頼している。訪問看護の情報を医療機関に報告し連携が取れる体制作りを行っている。病状によっては訪問看護、医師、GH職員がこまめに連携を取る事により、安定した健康の維持が出来ている事例がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様の心身状態の情報を病院側に報告している。また、治療経過をお聞きし早期に退院が出来るよう環境の整備等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の精神的な準備段階に合わせて必要に応じて終末期にたいする意向や希望要望等の書類を作成し、ご家族の意向を入居時から確認したり、病状等の進行により活用し、ご本人・ご家族に記入して頂き、チームとして終末期に取り組めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、医療機関やご家族への連絡が速やかにとることが出来る。予測される利用者においては対応の手順を掲示している。応急手当や初期対応の研修は研修で行っており、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方にも参加して頂き定期的に避難訓練を行い防火扉の確認や避難経路の確認・消防署への通報の手順等を身につけている。(今年度はコロナウイルス対応にて立ち合い等が出来ていない、書面報告となっている。)		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の認知症状に合わせて、洗濯してもらったりプライバシーに配慮できるような空間作りを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の職員との会話の中で、希望や要望など表出出来るよう声掛けを行っているが、認知症が重度な場合はご家族にも協力して頂き思いをくみ取れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日ではないが麻雀がやりたいと希望があり、1階へ出かけたり、暑い日にアイスが食べたいと要望あり、その方と近くのスーパーへ買い物へ出かけた日その日のやりたい事や希望に沿って生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方は化粧水・乳液・化粧をしたりおしゃれを楽しんでいる。また、定期的に害種出して美容室へ出かけたりしている方もいる。介助が必要な方は準備を行い身だしなみに配慮している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に好きな物・嫌いな物をお聞きし、その方が楽しみを持って食事が出来るよう配慮している。また、ご飯茶碗・お椀などは自宅で使用していた物を使用している。また、器など持ちやすい物を使用し工夫している。食事の下ごしらえや食器洗い等、s職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れたメニューを元に食事を調理している。その方の病気や嚥下状態に合わ食事形態を変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け・誘導を行い、義歯洗浄や歯磨きを行いつている。不十分な箇所は支援している。また、訪問歯科に依頼し必要に応じて、治療を受けたり歯科衛生士による口腔ケアを受け口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報収集を行い検討し個々に応じた排泄パターンの把握をトイレ誘導をしたり失禁の回数を減らす為に早めにトイレの声掛け・誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を積極的に摂ったり、体動や運動をして便秘解消に努めている。それでも改善されない場合は、医療機関と連携し下剤の調整等を行い便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を設定する事なく毎日いつでも入浴ができ右体制作りをしている。また、時間も午前・午後どちらでも入る事が出来るよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間・自室の明るさ・温度など個々によって違う為、ご本人に確認しながら環境作りを来なっている。また、就寝前には静かな環境で過ごしてもらえよう職員の声・テレビの音などにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のファイルを作成しお薬の内容・副作用・錠数などを職員全員が理解できる様に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々それぞれに新聞たたみ・テーブル拭き・洗濯たたみ・茶碗洗い・茶碗拭き・モップかけ等行っていたいでいる。また、麻雀やテレビ鑑賞・ドライブ・ドリルなど個々が好きな事を出来るだけ提供でき楽しめる時間が持てるよう支援している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には周辺の散歩やドライブに出かけることもあるが、新型コロナウイルスの影響で回数は減っている。ご家族の協力を得ながら外出を計画し実行できている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方は少額ではあるが、自己管理し自動販売機でジュースを買ったりスーパーで日用品を買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいるのでご家族から電話が時々あり話したり、電話をかけたいと訴えがあれば事務所の電話を使用し会話している。また、手紙を書きたいと話した際は便箋と封筒を渡し手紙を書きご家族が来訪された際にお渡ししている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の明るさ・温度等に配慮したり、トイレなどには目印を付けわかりやすくする工夫をしている。また、日付がわかるようカレンダーを作成したり、季節の飾りつけを入居者様と職員で作成したりして環境整備をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人の空間が好む方には談話室などでテレビをみたり、外を眺めたりしている。また、思い思いに過ごせる様に食堂にソファや椅子を設置しゆったりとした時間を過ごせる様、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅や以前暮らしていた時に使用していたタンスや使い慣れた日用品などを持参して頂きご本人が居心地よく生活が送れるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中でできる事・できない事を見極め職員が統一した支援が出来るように情報共有してできる能力が活かす事ができるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームもえれのお家 篠路

作成日: 令和 2年 10月 2日

市町村受理日: 令和 2年 10月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	冬期も含め災害備蓄品類の整備や、各種災害時の訓練を行っており、地震時の対応をさらに検討を重ねているので、その意向に期待したい。	・職員が、実際の場면을想像して初動行動をイメージしやすい訓練を行う。	・震度6以上の地震発生を想定して、日常のケア場面で具体的な想定を行ったうえでのシミュレーション訓練を実施する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。